

建築文化の祭典『ひろしま国際建築祭2025』 全21組の建築家・作家の展示概要決定

総合テーマ：つなぐ ―「建築」で感じる、私たちの“新しい未来”
Architecture : A New Stance for Tomorrow

開催期間：2025年10月4日(土)より2025年11月30日(日)まで



ひろしま国際建築祭 2025 Hiroshima Architecture Exhibition 2025

一般財団法人神原・ツネイシ文化財団(広島県福山市 代表理事 神原勝成)が、広島県の福山市、尾道市を中心に、2025年10月4日(土)より2025年11月30日(日)まで開催する建築文化の祭典『ひろしま国際建築祭2025』のメインビジュアル、展示概要、出展建築家・作家、チケット購入方法などが決定しましたので、お知らせします。

本日6月4日で建築祭の開幕まで4か月となりました。初開催となる今回は、広島県の福山市・尾道市にある7つの会場を中心に8つの展示を行います。参加建築家は世界的に活躍する著名建築家はもちろん、未来を担う若手建築家・作家まで総勢21組が出展します。建築文化を日本から発信する初の試みとなる『ひろしま国際建築祭2025』にご期待ください。



デザイン：UMA / design farm
左から：Yasuhiro Ishimoto, Hiroshima Peace Center (Tange Kenzo), c.1954, The Museum of Art, Kochi ©Kochi Prefecture, Ishimoto Yasuhiro Photo Center
Studio Mumbai 「LOG」 ©Ken'ichi Suzuki
Clouds Architecture Office / Space Exploration Architecture 「Mars Ice House」 ©Clouds AO/ SEArch +

『ひろしま国際建築祭 2025』企画概要

<ひろしま国際建築祭>は、2025年10月を初回とし、今後3年に一度、建築にまつわる展示や展覧会を開催いたします。

会期	2025年10月4日(土) - 2025年11月30日(日) (58日間)	入場料	鑑賞パスポート(福山・尾道共通3日間有効パスポート) ・会場販売 3,000円(税込) ・WEB販売 2,500円(税込) [高校生以下および障がい者] 無料 *尾道市立美術館のみ単館チケットの販売あり。
出展建築家・作家	安藤忠雄、石上純也、磯崎新*、伊東豊雄、川島範久、 高野ユリカ、妹島和世(SANAA)、丹下健三*、長坂常、 西沢立衛(SANAA)、坂 茂、藤井厚二*、藤本壮介、 前田圭介、槇文彦*、山本理顕、 VUILD/ 秋吉浩気、Clouds Architecture Office、 けんちくセンター CoAK、 スタジオ・ムンバイ/ピジョイ・ジェイン、 UMA/design farm (以上、五十音順・*故人)	主催	一般財団法人神原・ツネイシ文化財団
開催地	広島県福山市、尾道市+瀬戸内エリアのサテライト会場 福山/ 神勝寺 禅と庭のミュージアム、 ふくやま美術館(ギャラリー) 尾道/尾道市立美術館、まちなか文化交流館「Bank」、 LLOVE HOUSE ONOMICHI、ONOMICHI U2、LOG	後援	文化庁 広島県 福山市 尾道市 一般社団法人せとうち観光推進機構 一般社団法人広島県観光連盟(HIT) 広島商工会議所 福山商工会議所 尾道商工会議所 中国新聞社
		総合ディレクター	白井良邦 (神原・ツネイシ文化財団理事/慶應義塾大学SFC特別招聘教授)
		チーフキュレーター	前田尚武 (神原・ツネイシ文化財団主任研究員/京都美術工芸大学特任教授)

展示プログラム

ナイン・ヴィジョンズ | 日本から世界へ 跳躍する9人の建築家

建築界のノーベル賞と言われる「プリツカー建築賞」を受賞した、日本の建築家に焦点を当てる企画展です。「プリツカー建築賞」受賞の日本人建築家は、2025年時点でアメリカと並び8組と、世界の受賞者数を誇ります。
なぜ日本の建築家は世界で評価され、どのようにして世界レベルに達したのか? その魅力と真相に迫ります。

<企画概要>

名称	ナイン・ヴィジョンズ 日本から世界へ 跳躍する9人の建築家
会期	2025年10月4日(土) - 2025年11月30日(日)
会場	尾道市立美術館 広島県尾道市西土堂町17-19(千光寺公園内)
主催	ナイン・ヴィジョンズ実行委員会
出展建築家	プリツカー建築賞を受賞した8組(9人)の建築家 丹下健三(1987年受賞) 槇文彦(1993年受賞) 安藤忠雄(1995年受賞) 妹島和世・西沢立衛[SANAA](2010年受賞) 伊東豊雄(2013年受賞) 坂 茂(2014年受賞) 磯崎新(2019年受賞) 山本理顕(2024年受賞)
特別協力	千葉工業大学建築学科 今村創平研究室 京都大学大学院工学研究科建築学専攻 建築史学 ダニエル研究室 京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab



丹下健三 撮影：齋藤康一



横文彦 ©Peter Hyatt



安藤忠雄 撮影：関野欣次



妹島和世(SANAA) ©SANAA



西沢立衛(SANAA) ©SANAA



伊東豊雄 ©藤塚光政



坂 茂



磯崎新 写真提供：Arata Isozaki & Associates



山本理顕 ©Tom Welsh for The Hyatt Foundation Pritzker Architecture Prize



尾道市立美術館 写真提供：尾道市立美術館

NEXT ARCHITECTURE | 「建築」でつなぐ“新しい未来”

ひろしま国際建築祭 2025 のテーマ「つなぐ——「建築」で感じる、私たちの“新しい未来”」に呼応し、未来を担う5組の建築家がそれぞれの視点から新たなヴィジョンを提示する試みです。現代の建築家たちは、建築を近代が追い求めた人工的な装置としてではなく、地球と響き合う有機的な存在として捉え直しています。「海」、「自然」、「市民」、「風景」、「宇宙」との視点から構想された5つの提案は、環境と社会の新たな結びつきを探るものであり、建築がいかにして私たちの未来を形づくるかを問いかけます。

<企画概要>

名称 NEXT ARCHITECTURE | 「建築」でつなぐ新しい“未来”
会期 2025年10月5日(日) - 2025年11月30日(日)
会場 神勝寺 禅と庭のミュージアム(無明院)
広島県福山市沼隈町大字上山南 91
出展建築家 藤本壮介、石上純也、川島範久、VUILD / 秋吉浩気、
Clouds Architecture Office

※ 2025年10月4日(土) は式典のため、
一般の方は終日入場いただけません。



藤本壮介 撮影: David Vintiner



石上純也 ©CHIKASHI SUZUKI



川島範久



VUILD/ 秋吉浩気
撮影: 齋藤誠一



Clouds Architecture Office ©GION



神勝寺 禅と庭のミュージアム(無明院)
撮影: 鈴木研一 写真提供: 神原・ツネイシ文化財団

神原・ツネイシ文化財団 建築文化再興プロジェクト 「成城の家」の写し—— 丹下健三自邸再現・予告展

戦後日本の建築界をリードしてきた建築家・丹下健三が、東京・成城に自邸として設計した住居がありました(1953年竣工。現存せず)。その伝説的な住居を、瀬戸内海を見下ろす福山市内の丘の上に再現するプロジェクトが進行中です。この展示では、宮大工が制作した縮尺1/3模型と共に、丹下健三がこの住居のためにデザインした家具や愛用の品と当時の様子を伝える資料類を展示しながら、「過去」の自邸の姿、そして近い将来実現する「未来」の姿をご紹介します。

<企画概要>

名称 神原・ツネイシ文化財団 建築文化再興プロジェクト
「成城の家」の写し—— 丹下健三自邸再現・予告展
会期 2025年10月5日(日) - 2025年11月30日(日)
会場 神勝寺 禅と庭のミュージアム(無明院・明々軒)
広島県福山市沼隈町大字上山南 91
出展建築家 丹下健三
監修 内田道子
特別協力 溝口至亮(GALLERY-SIGN)
協力 おだわら名工舎



「成城の家」(丹下健三自邸)
撮影: 丹下健三 写真提供: 内田道子

後山山荘(旧・^{あいぜんそう}藹然荘)の100年とその次へ | 福山が生んだ建築家・藤井厚二

「藹然荘」(竣工年不詳)は、福山の豪商「くろがねや」12代当主・藤井与一右衛門が頼の浦に構えた別邸です。1932年頃、与一右衛門の弟で、建築家の藤井厚二が自邸「聴竹居」の写しといえるサンルームを増築。しかし長らく人々に忘れられ、77年後に崩壊した姿で発見されました。それが2013年には「後山山荘」(改修・設計/前田圭介)の名で再生され、現在では多目的に活用されています。本展は、福山が生んだ建築家・藤井厚二の建築をめぐる100年の物語です。

<企画概要>

名称	後山山荘(旧・ ^{あいぜんそう} 藹然荘)の100年とその次へ 福山が生んだ建築家・藤井厚二
会期	2025年10月4日(土)-2025年11月30日(日)
会場	ふくやま美術館(ギャラリー) 広島県福山市西町2-4-3
出展建築家	藤井厚二、前田圭介
企画監修・会場構成	前田圭介(UID)
特別協力	谷藤史彦、藤井英博、松隈章、後山山荘倶楽部、竹中工務店、聴竹居倶楽部、宮沢洋(BUNGA NET)



藤井厚二



前田圭介 ©Koji Fujii/TOREAL



ふくやま美術館 写真提供: 福山観光コンベンション協会

OPEN LLOVE HOUSE | 尾道「半建築」展

建築家・長坂常が尾道で一目惚れした空き家を自ら購入しリノベーション、新たな文化交流拠点として再生させた「LLOVE HOUSE ONOMICHI (ラヴ・ハウス・オノミチ)」——2022年のオープン以降、期間限定で公開され、国内外のクリエイターが建築やデザイン、アートに関する展示を行っています。建築祭開幕に合わせ「LLOVE HOUSE ONOMICHI」では、オープンハウス「OPEN LLOVE HOUSE」を開催。長坂が率いる建築設計事務所、スキーマ建築計画が今年で設立から27年を迎えることを記念し、OBOGと現スタッフ約40名が自身の携わったプロジェクトや現在の活動を報告。本展では、その記録と共にスキーマで素材やデザインを検討する際につくってきたサンプルや家具なども展示します。スキーマがその活動のなかで模索してきた、建築と家具の間、脱デスクトップでつくること、未完であることの可能性、見えない開発……など。「LLOVE HOUSE ONOMICHI」の空間を通して、建築におけるさまざまな「半建築」の可能性を探ります。

<企画概要>

名称	OPEN LLOVE HOUSE 尾道「半建築」展
会期	前期 2025年10月4日(土)-2025年10月13日(月・祝日) 後期 2025年11月22日(土)-2025年11月30日(日) ※会期による展示の変更はありません。 ※10月4日(土)～10月5日(日)は、OBOGと現スタッフ約40名による「活動報告会」を一般公開する予定です。 ※10月3日(金)については、開幕直前「関連プログラム」として鑑賞パスポートなし(無料/先着順、申し込み不要)での「活動報告会」を一般公開する予定です。
会場	広島県尾道市東土堂町8-28
出展建築家	長坂 常+スキーマ建築設計



長坂 常 撮影: Yuriko Takagi



LLOVE HOUSE ONOMICHI 撮影: Ryo Takatsuka

うつすからだと、うつしの建築

尾道には、国宝や重要文化財に指定されている古建築から最新の現代建築、あるいは名もなき建物まで。街の日常生活の中に様々な時代の建築が溶け込んでいます。写真家・高野ユリカはなかでも「うつし」の建築に焦点を当て、浄土寺や茶園・爽籟軒など、尾道の建築をみずみずしく写し出します。かつて尾道で生活をしていた人たちの視線に倣い、ここからまた百年先に向けて「うつし」ていくように。私たち自身が「うつす」からだとあって、尾道の建築の語りを試みる展示となります。

<企画概要>

名称 うつすからだと、うつしの建築
会期 2025年10月4日(土) - 2025年11月3日(月・祝)
会場 まちなか文化交流館「Bank」 広島県尾道市土堂1-8-3
出展作家 高野ユリカ(写真家)
撮影場所(予定) 浄土寺、西國寺、旧土堂小学校、林芙美子記念館、
明喜庵(豪商・橋本家別邸内「待庵」うつし)
協力 尾道市



高野ユリカ



まちなか文化交流館「Bank」
写真提供：尾道市文化振興課

Architecture Voice from LOG | 「建築の声」を聞く

大阪を拠点に活動するUMA/design farm(ユーエムエー・デザインファーム)は、尾道を訪れた際、LOG(ログ)を設計した「インドのスタジオ・ムンバイ」代表で建築家のビジョイ・ジェイン氏の設計コンセプトや、それを具現化した尾道のスタッフの思いを聞き、どうかその目に見えない場が発する「声」をデザインで表現できないか、と考えました。LOGの建築が発する「声」をハンドアウトを片手にご覧いただくことで、ビジョイ・ジェイン氏の哲学や日本・インドの職人のこだわり、LOGが大切にしていることや取り組んできたことを「ちょっと知っていたく」、そんな機会をお届けします。



スタジオ・ムンバイ/ビジョイ・ジェイン
撮影：Tetsuya Ito



UMA / design farm

<企画概要>

名称 Architecture Voice from LOG | 「建築の声」を聞く
会期 2025年10月4日(土) - 2025年11月30日(日)
会場 LOG 広島県尾道市東土堂町11-12
出展建築家・作家 スタジオ・ムンバイ/ビジョイ・ジェイン、UMA / design farm



LOG
撮影：Tetsuya Ito

「ZINE」から見る日本建築の Now and Then

「ZINE」とは MAGAZINE の「ZINE」から取られた言葉で、自主制作の雑誌や、紙に印刷した自主制作のビジュアルブックを指します。今回は京都を拠点に活動するけんちくセンター CoAK（主宰：川勝真一）のキュレーションで、日本の若手建築家がつくった「ZINE」や希少な建築系のヴィジュアルブックを集めて展示・一部販売を行います。日本の若手建築家の ZINE カルチャーを体験してみましょう。



ONOMICHI U2
撮影：鈴木研一

<企画概要>

名称 「ZINE」から見る日本建築の Now and Then
会期 2025年10月4日(土) - 2025年11月30日(日)
会場 ONOMICHI U2 広島県尾道市西御所町5-11
出展作家 けんちくセンター CoAK

※この展示は「鑑賞パスポート」購入なしでご覧いただけるプログラム（無料）です。

関連プログラム

※その他のアネックス会場、関連プログラム、トークイベントなどの詳細については、後日発表いたします。

連動企画「ひろしまたてもものがたりフェスタ 2025」

広島市、呉市を中心に展開される「ひろしまたてもものがたりフェスタ 2025」と連携した取組を進めていきます。

建築祭期間中、関連イベントを尾道市、福山市でも実施予定です。

※関連イベントなどの詳細については後日発表いたします。

<https://tatefesta.info/>

『ひろしま国際建築祭 2025』会場



鑑賞パスポート情報

『ひろしま国際建築祭 2025』は、鑑賞パスポートで対象展示会場にご入場いただけます。
神勝寺 禅と庭のミュージアム、ふくやま美術館（ギャラリー）、尾道市立美術館、LOG、
LLOVE HOUSE ONOMICHI、まちなか文化交流館「Bank」

◎販売期間

- ・WEB 販売：2025 年 7 月 1 日（火） - 2025 年 11 月 30 日（日）
- ・会場販売：2025 年 10 月 4 日（土） - 2025 年 11 月 30 日（日）

◎鑑賞パスポート（3 日間有効）種類

- ・鑑賞パスポート 会場販売 3,000 円（税込）
- ・鑑賞パスポート WEB 販売 2,500 円（税込）
- ・鑑賞パスポート [高校生以下および障がい者] WEB 申し込みで無料

※高校生以下および障がい者（＋介護者 1 名）の鑑賞は無料です。

事前に WEB で対象鑑賞パスポートをお申し込みの上、各会場にて証明書をご提示ください。

※尾道市立美術館のみ、単独チケットを販売いたします。（窓口販売のみ /1 名 1,000 円、学生 800 円）

※購入後の鑑賞パスポートの「払戻し」「再発行」は致しませんのでご了承ください。

※一部無料でご覧いただける展示会場もあります。

◎留意事項

- ・建築祭会期中はいつでもご利用可能です。（3 日連続でご利用ください）
- ・1 会場、1 日 1 回限り入場可能です。
- ・鑑賞パスポートの二次元コードを各会場の入り口で認証し、ご入場ください。
- ・鑑賞パスポートは、ご本人様のみ利用可能です。
- ・ご入場の際、無料対象者（高校生以下及び障がい者）については、ご本人様確認として、学生証、身分証、障がい者手帳等の提示を求める場合がございます。
- ・安全にご鑑賞いただくために、入場制限を行う場合がございます。
- ・紛失・盗難等について当方は責任を負いません。
- ・自然災害や作品メンテナンス等により作品の公開を中止する場合があります。
- ・営利を目的とした転売はいかなる場合も固くお断りいたします。
- ・本券の利用上、不正行為が発覚した場合、本券を回収いたします。
- ・施設により、定休日、休館日がありますので、ご注意ください。

◎鑑賞パスポート販売場所

< WEB 購入 >

- ・ArtSticker

※上記販売開始日より、ArtSticker にてご購入いただけます。

※ ArtSticker の電子チケットは鑑賞パスポートへの引換が不要です。

- ・以下のプレイガイド等で購入した場合は、鑑賞パスポートへの引換が必要です。
- ・チケットぴあ（予定）

※鑑賞パスポート引換場所

- ・神勝寺 禅と庭のミュージアム：広島県福山市沼隈町上山南 91
- ・尾道市立美術館：広島県尾道市西土堂町 17-19
- ・ONOMICHI U 2：広島県尾道市西御所町 5-11
- ・LOG：広島県尾道市東土堂町 11-12
- ・まちなか文化交流館「Bank」

アクセス 交通案内

〈福山へのアクセス〉

◎電車をご利用の場合

最寄駅：JR山陽本線福山駅（新幹線）

◎飛行機をご利用の場合

広島空港からリムジンバスでJR福山駅へ。

◎お車をご利用の場合

山陽自動車道 福山東IC

詳しくはこちらをご覧ください。https://www.fukuyama-kanko.com/travel/oyakudachi/k_access.php

〈尾道へのアクセス〉

◎電車をご利用の場合

最寄駅：JR山陽本線尾道駅 / JR新尾道駅（新幹線）

◎飛行機をご利用の場合

広島空港から高速バスでJR三原駅へ向かい、JR山陽本線に乗り換え、JR尾道駅へ

◎お車をご利用の場合

山陽自動車道 尾道IC、福山西IC

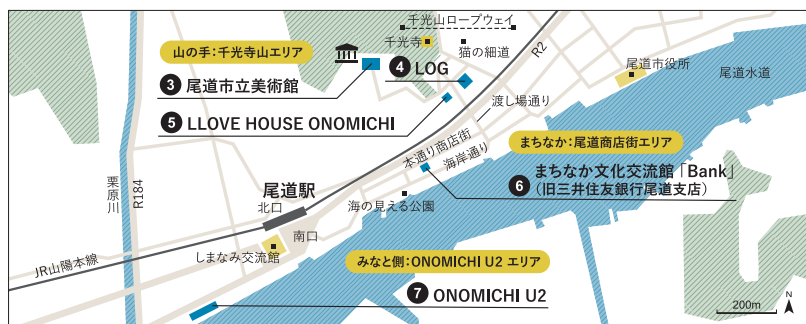
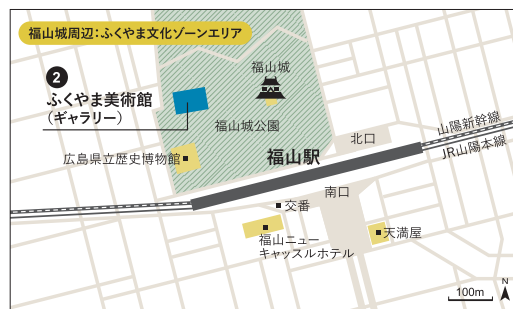
詳しくはこちらをご覧ください。

<https://www.ononavi.jp/access/access.html>

羽田空港	広島空港		
飛行機 約1時間20分	空港リムジンバス 約65分		
JR東京駅	約3時間30分	JR福山駅	
JR新大阪駅	約1時間5分		
JR広島駅	約20分		
JR博多駅	約1時間30分		

在来線約20分（山陽本線）

JR尾道駅



※電車であれば、新幹線「のぞみ」が1時間に1本停車する「JR福山駅」からのアクセスがおすすめです（東京～福山まで新幹線「のぞみ」で約3時間30分）（博多～福山まで新幹線「さくら」で約1時間30分）。

※飛行機であれば「広島空港」が最寄りの空港で、JR福山駅まではリムジンバスが1日6本出ています（広島空港～福山駅までリムジンバスで約65分）

※尾道へは、JR福山駅からJR尾道駅まで、電車（山陽本線）で約20分です。

一般の方の問い合わせ先

◎記事等で問い合わせ先を記載する際、一般の方に向けては、下記ホームページをご紹介します。

『ひろしま国際建築祭 2025』公式ホームページ

<https://hiroshima-architecture-exhibition.jp/>

お問い合わせ先（報道関係者用）

◎報道関係者お問い合わせ先：

『ひろしま国際建築祭 2025』 実行委員会事務局（一般財団法人神原・ツネイシ文化財団 内）

メール：pr@kambara-tsuneishi-foundation.jp（担当：守田美奈子）

ひろしま国際建築祭とは

＜ひろしま国際建築祭＞は、「建築」で未来の街をつくり、こどもの感性を磨き、地域を活性化させ、地域の“名建築”を未来に残すことをミッションとして掲げ、3年に一度開催する建築文化を発信する祭典です。

世界を舞台に活躍する巨匠から未来を担う若手建築家まで。彼らのドローイングや模型、動画の展示や特別なインスタレーションを通じ、建築文化を切り口に、私たちの未来社会と一緒に考えてみたいと思います。トークショーや文化財指定の古建築・通常非公開の建築物などのオープンアーキテクチャー、地元小中学生を招いての建築鑑賞やワークショップなど、多様なプログラムを計画しています。

巨大な内海に面した瀬戸内地域では古来、風土や景観、伝統に呼応した名建築の数々が生まれてきました。その背景には、日本が国家として形づくられた遣隋使・遣唐使の時代から近世の朝鮮通信使・北前船にいたるまで、広島県の位置する瀬戸内海が“文化・物流の大動脈”だったことが理由としてあります。日本はこの瀬戸内海を通じ、海外から人や文化を招き入れ、あるいは発信し、この海を通じ文化交流を行ってきました。古建築はもとより、自然と文明が築いてきた瀬戸内地域特有の磁力に吸い寄せられるように丹下健三、槇文彦、安藤忠雄、伊東豊雄、SANAA、坂茂といった現代の建築家たちも挑戦的で実験的な名作を次々と生み出しています。それゆえに瀬戸内地域は古建築から現代建築まで「建築文化の集積地」として貴重な建築の宝庫となっています。

“文化・物流の大動脈”であった瀬戸内海の周辺地域は“つなぐ”ことを鍵にその礎を築いてきたといえます。『ひろしま国際建築祭2025』は、「つなぐ——「建築」で感じる、私たちの“新しい未来” Architecture: A New Stance for Tomorrow」をテーマに、歴史、風土、景観、技術、思想などさまざまな視点から「建築」に触れ、考え、交わる機会をつくり、ここ瀬戸内で建築文化を感じることから、みなさんと“新しい未来”像を考えるきっかけになればと願っています。

ひろしま国際建築祭テーマ

つなぐ——「建築」で感じる、私たちの“新しい未来”

Architecture : A New Stance for Tomorrow

『ひろしま国際建築祭2025』は、「つなぐ「建築」で感じる、私たちの“新しい未来” Architecture: A New Stance for Tomorrow」をテーマに、歴史、風土、景観、技術、思想などさまざまな視点から「建築」に触れ、考え、交わる機会をつくり、ここ瀬戸内で建築文化を感じることから、みなさんと“新しい未来”像を探りたいと考えています。

地球規模で発生する自然災害や、戦争とそれに伴う難民問題、そして環境破壊——

21世紀に入って四半世紀経った今も、私たちは様々な問題に直面し、不安を感じながら日常生活を送っています。またここ日本では少子化・高齢化が進み、経済の停滞や無秩序な開発で街の風景が変わり、活気が失われつつあります。私たちはそのような状況のなかで、問題にどう向き合い、課題を解決していくべきでしょうか？

「建築」は単に建物や街づくりを指すものではありません。それは文化を生み・育み、私たちの生活をより豊かにしながら未来をつくっていくための「知恵」のひとつです。

建築祭を通じ、私たちの新しい未来について、考えてみたいと思います。

公式デザイン



ひろしま国際建築祭 2025 Hiroshima Architecture Exhibition 2025

デザイン：原研哉



デザイン：UMA / design farm

戦後 80 年という節目の年に行われる『ひろしま国際建築祭 2025』では、焼け野原から「建築」の力も借りて復興を遂げてきた日本の姿と、平和の象徴でもある建築家・丹下健三の「広島平和会館原爆記念陳列館」の写真を基軸に、過去・現在・未来という3つの時間を建築で「つなぐ」構成になっています。

「過去」のイメージは写真家・石元泰博が撮影した「広島平和会館原爆記念陳列館」のモノクローム写真を用い、「現在」の姿は尾道のホテル LOG の写真を、「未来」のヴィジョンを表すビジュアルには 2015 年に NASA が主催した火星居住コンペ 1 等に輝いた NY 拠点の建築ファーム Clouds Architecture Office の CG を用い展開しています。

UMA / design farm

2007 年、原田祐馬により設立。大阪を拠点に文化や福祉、地域に関わるプロジェクトを中心に、グラフィック、空間、展覧会や企画開発などを通して、理念を可視化し、新しい体験をつくりだすことを目指している。「ともに考え、ともにつくる」を大切に、対話と実験を繰り返すサステナブルなデザインを实践。現在のメンバーは、原田祐馬、山副佳祐、西野亮介、津田祐果、平川かな江、高橋めぐみ、大隅葉月、白川温未の 8 人。受賞歴はグッドデザイン賞 2016・金賞、日本サインデザイン賞最優秀賞、日本タイポグラフィ年鑑ベストワーク、CS デザイン賞準グランプリなど。



公式サイト

◎ホームページ

<https://hiroshima-architecture-exhibition.jp/>

◎SNS

Instagram : https://www.instagram.com/hiroshima_arch_exhibition/

X : https://x.com/Hiroshima_Arch

Facebook : <https://www.facebook.com/Hiroshima.Architecture.Exhibition/>

一般財団法人神原・ツネイシ文化財団について

『ひろしま国際建築祭 2025』を主催する<神原・ツネイシ文化財団>は、建築文化を発信することを目的のひとつとして設立された財団です。

<一般財団法人神原・ツネイシ文化財団 内>

◎所在地：広島県福山市沼隈町常石 1083

◎設立日：2024 年 1 月 30 日

◎目的：

1. 建築文化を軸にした展覧会、講演会、情報発信等の事業
2. 建築文化を軸にした地域活性化および雇用促進のための事業
3. 地域の建築文化、伝統文化、伝統産業およびまちなみの保全に関する事業

◎役員一覧：

代表理事 神原勝成

理事 石川康晴 内田道子 大原あかね 白井良邦 福武英明 溝口至亮

監事 足立仁

<https://kambara-tsuneishi-foundation.jp/>

『ひろしま国際建築祭 2025』建築祭関係者プロフィール

総合ディレクター

白井良邦 Yoshikuni SHIRAI

神原・ツネイシ文化財団理事 | 慶應義塾大学 SFC 特別招聘教授 | Sustainable Japan Magazine by The Japan Times 編集長。1993 年出版社マガジンハウス入社。雑誌『POPEYE』『BRUTUS』を経て雑誌『Casa BRUTUS』には 1998 年の創刊準備から参加。2007 年～2016 年『Casa BRUTUS』副編集長。建築や現代美術を中心に担当する。2017 年<せとうちクリエイティブ&トラベル>代表取締役就任。客船 guntu(ガンツウ)など富裕層向け観光事業に携わる。2020 年編集コンサルティング会社<アプリコ・インターナショナル>設立、同社代表取締役。著書に『世界のビックリ建築を追え』(扶桑社)、共著に『この旅館をどう立て直すか』(CCC メディアハウス)、『Shiroiya Hotel-Giving Anew』(ADP)。瀬戸内エリアの観光や文化振興を考える「瀬戸内デザイン会議」メンバー。



チーフ・キュレーター

前田尚武 Naotake MAEDA

神原・ツネイシ文化財団主任研究員 | 京都美術工芸大学特任教授 | 京都モダン建築祭実行委員 | 一級建築士、学芸員。1994 年早稲田大学大学院修士課程修了。森美術館 (2003-2018)、京都市京セラ美術館 (2019 - 2025)。国内外多数の美術館・博物館の設計や企画運営に携わり、60 展以上の展覧会・展示デザインを手がける。また、「メタボリズムの未来都市展」(2011 年)、「建築の日本展」「モダン建築の京都」展 (2021 年)などの建築展を企画するほか、「京都モダン建築祭」(2022 年～)を立ち上げる。2019 年度日本建築学会文化賞、日本空間デザイン賞 2021 博物館・文化空間部門金賞 (富岡製糸場西置繭所) ほか受賞。



報道関係者用 画像リンク

関連画像はこちらのドライブからご利用ください。

<https://drive.google.com/drive/folders/1kqy818Bk-CsEEO-ZUEX0dgG5bcWjdJKN>

※ご掲載の際は、画像に記載されているクレジットをご明記ください。過度な画像加工はご遠慮ください。

※メディアにご掲載の際は、事実確認のため上記報道関係者用メールアドレスにご連絡ください。

※メディアにご掲載の際は、掲載状況につきましてご一報いただけましたら幸いです。

※一部掲載ごとに申請が必要な画像があります。

画像データ APPENDIX (サムネイル)



ひろしま国際建築祭 2025 Hiroshima Architecture Exhibition 2025

デザイン：原研哉



尾道市立美術館 写真提供：尾道市立美術館



神勝寺 禅と庭のミュージアム(無明院) 撮影：鈴木研一
写真提供：神原・ツネイシ文化財団



神勝寺 禅と庭のミュージアム(無明院) 撮影：鈴木研一
写真提供：神原・ツネイシ文化財団



ふくやま美術館 写真提供：福山コンベンション協会



LLOVE HOUSE ONOMICHI 撮影：Ryo Takatsuka



まちなか文化交流館「Bank」 写真提供：尾道市文化振興課



LOG
撮影：Tetsuya Ito



ONOMICHI U2
©Ken'ichi Suzuki



神原・ツネイシ文化財団 建築文化再興プロジェクト
「成城の家」のうつし—— 丹下健三自邸再現・予告展
撮影：丹下健三 写真提供：内田道子

『ひろしま国際建築祭 2025』出展建築家・作家



丹下健三 撮影 齋藤康一



槇 文彦 ©Peter Hyatt



安藤忠雄 撮影：関野欣次



妹島和世・西沢立衛
[SANAA] ©SANAA



伊東豊雄
© 藤塚光政



坂 茂



磯崎 新
写真提供：Arata Isozaki & Associates



山本理顕
撮影：©Tom Welsh for The Hyatt Foundation Pritzker Architecture Prize



藤本壮介
撮影：David Vintiner



石上純也
©CHIKASHI SUZUKI



川島範久



Clouds Architecture Office
©GION



VUILD/ 秋吉浩気
撮影：齋藤誠一



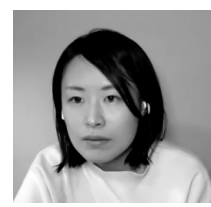
藤井厚二



前田圭介
©Koji Fujii/TOREAL



長坂 常
撮影：Yuriko Takagi



高野ユリカ



ビジョイ・ジェイン
撮影：Tetsuya Ito



UMA /design farm



けんちくセンター CoAK

申請書類

画像使用申請書

<対象画像>

丹下健三自邸「住居（成城の自邸）」

<使用条件>

和文または欧文で、以下の写真クレジットを必ず明記してください。

和文表記

撮影 / 丹下健三 写真提供 / 内田道子

欧文表記

Photo by Kenzo Tange Courtesy of Michiko Uchida

- ・写真の使用許可は、1回の申請につき1回限りの使用とし、使用済みのデータは必ず破棄してください。
- ・再度、写真を使用したい場合は、別途使用申請書を提出してください。・写真の無断での複製、転載はしないでください。
- ・写真を使用した媒体（印刷物等）は1部、必ず財団宛にお送りください。

<写真使用詳細>

・社名		
・申請者名（所属部署）		
・媒体名		
・特集名・番組名等		
・掲載日・放送日等		
☐ 上記の条件を承諾し、ルールに従い、写真の使用を申請いたします。		2024年 月 日
・社名／申請者名／押印		押印
・申請者連絡先 電話番号		
メールアドレス		

申請書送信アドレス

pr@kambara-tsuneishi-foundation.jp（守田美奈子）

申請書類02

画像使用申請書

<対象画像>

槇文彦 ポートレート

<使用条件>

以下の写真クレジットを必ず明記してください。

表記

©Peter Hyatt

- ・写真の使用許可は、1回の申請につき1回限りの使用とし、使用済みのデータは必ず破棄してください。
- ・再度、写真を使用したい場合は、別途使用申請書を提出してください。・写真の無断での複製、転載はしないでください。
- ・写真を使用した媒体（印刷物等）は1部、必ず財団宛にお送りください。

<写真使用詳細>

・社名		
・申請者名(所属部署)		
・媒体名		
・特集名・番組名等		
・掲載日・放送日等		
☐ 上記の条件を承諾し、ルールに従い、写真の使用を申請いたします。		2024年 月 日
・社名／申請者名／押印		押印
・申請者連絡先 電話番号		
メールアドレス		

申請書送信アドレス

pr@kambara-tsuneishi-foundation.jp(守田美奈子)